

平成二十七年 度

和歌山信愛中学校

入学試験 前期日程

国 語 (六〇分 一〇〇点)

受験上の注意

- 一 問題用紙は1～19ページまでです。
開始のチャイムが鳴ったら確認して始めなさい。
- 二 受験番号は、問題用紙と解答用紙の両方に書きなさい。
- 三 終了のチャイムが鳴ったら、問題用紙の上に解答用紙を
開いたまま裏返しておきなさい。

〈解答は、句読点や記号も一字分と数えて記入すること。〉

受験番号

【一】次の問いに答えなさい。

問一 線部①～④の漢字の読みをひらがなで答えなさい。また、線部⑤～⑩のひらがなを漢字に直しなさい。

- ① 額あせに汗が流れる。
- ② チーム一丸となって戦う。
- ③ そんな気持ちは毛頭ない。
- ④ 長い年月を経る。
- ⑤ お金をかんりする。
- ⑥ 勝利をおさめる。
- ⑦ しきゆう集まって下さい。
- ⑧ 創立記念のしゆくがかいに出席する。
- ⑨ みんなの歌声をろくおんする。
- ⑩ たんとうちよくにゆうに意見を述べる。

問二 ①～⑥の熟語の組み立てと同じになるものを後のア～カから選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度使うことはできません。

- ① 尊敬 ② 寒波 ③ 進退 ④ 骨折 ⑤ 不測 ⑥ 開幕

ア 日照 イ 未明 ウ 食堂 エ 養蚕 オ 存亡 カ 温暖

問三 次の文が正しい表現になるように、() に体の一部を表す漢字を入れなさい。

- ① 周りに () もくれず、勉強にいそしむ。
② この仕事は難しすぎて、私の () に余る。
③ ここは一つ () を割って話し合おう。
④ いくら走っても追いつけない。君のスピードには () をまいたよ。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

実際、私たちの体は信じがたいほどうまくできています。そして、だれもが自分が思っている以上のすごい能力をもっているのですが、そのことにほとんどの人が気づいていません。でもこれは無理のないことなのです。

現代は科学が発達していますから、知識として「人間の体はこんなにすごいんだよ」ということは、わかっているかもしれない。しかし、実感が ^a ともないません。私も遺伝子とつきあってみて、やっと少しわかりかけてきた段階です。ふつう一般の人たちの生活はほとんどが原寸大で、マクロやミクロの現実にめったに出あわない。ですから実感としてとらえることがむずかしいのは当然です。遺伝子の生の姿を ^b お見せすることもむずかしい。そこで生命というものが、私たちが考えている以上に素晴らしいものであるという証拠を一つあげてみたいと思います。

みなさんは、一本の苗から一万数千個の実をつけたトマトというのをご存じでしょうか。「科学万博つくば」（一九八五年）に出品されたものです。このトマトは一般にバイオ技術によってできたと思われていますが、実はバイオ技術はいい使い使われています。その辺にまけば、せいぜい二十個か三十個しかならない、ごくごくふつうのトマトの種が用いられています。

その種がたった一本の苗で一万数千個のトマトを実らせた。それがバイオの力ではないとしたらいったい何だと思われませんか。その秘密は太陽の光と、栄養分を含んだ水だけで育てたところにあります。 **A**、ふつうと違う点は水耕栽培ということです。

ふつうの植物の栽培には土が不可欠です。土に根をはり、根から養分や水分をとって生長していく。太陽の光も空気も必要ですが、作物の栽培でいちばん重要視されるのは土というのがこれまでの常識でした。

B、このハイポニカ農法を考案した野沢重雄さんは、「植物は土に根を生やしているために、潜在的な生長が一定におさえられている」という ^① 逆発想の立場から、土から解放して、自然の恵みを十分に受けさせることにより、ふつうの千倍もの実をつけるトマトを育て上げてしまったのです。野沢さんはトマトの立場に立って考えることができる人でした。

これはどういうことかというところ、トマトの生命力でさえも、ふつう人間が考えているよりも、もっとはるかに素晴らしい能力をもっていたということなのです。野沢さんはそういう哲学をもち、それを実践された。これを人間に当てはめたらどうなるでしょうか。私たちは自分の能力をそれなりに引き出そうと努力しますが、**②** 限界意識というものもつねにもたされています。C 親に「なぜもつといい成績をとってこれられないのか」と言われれば、すぐに「これが精いっぱいだ」といった言い方をしてしまう。では、そのような限界意識はどうやって培われたかというところ、他者との比較によるものがほとんどです。

つまり、それは「他の人は自分よりも才能をもっている。自分なりには頑張っているつもりだから、これ以上は無理」という、ごく限られた経験で得られた認識にすぎません。ところが、人間はそのような比較を通して得たものを限界と認識し、絶対視してしまっているのです。そのような考えがいかに狭いものであるか。

野沢さんが多くの実をつけるトマトをつくったのは、次のような考え方からでした。

「いまある植物というのは、一つの状態に対応した、限られた可能性しか出していない。なぜもつと大きな可能性があらわれないかという条件を調べていったんです。その一つが土がじゃまをしているという見方なんです」

植物が根をはるのに土はじゃまになっている。自然の土のなかで水分はしょっちゅう変化する。それが酸素の供給にもじゃまになるし、温度の変化もまともに着ける。生理的なものは一つの化学反応だから、こういうじゃまになるものが、スムーズな化学反応にブレーキをかけている。もし、こういうもろもろの制約を除いていたらどうなるか。もつともつと伸びるはずだ。光合成能力というものの効率をもつと上げられるはずだ、と野沢さんは考えた。それがまさにズバリ、そのとおりだったことは、通常の千倍のトマトを実らせたこと**③** 見事に証明されたわけです。

人間も全く同じだと思うのです。じゃまになることがらを取り除いて、十分な環境を与えてやればいくらでも伸びる。トマトで通常の千倍の実績があるのですから、トマトより精巧な生きものである人間は、もつとすごい千倍以上の能力を発揮しても不思議ではない。トマトでもこれだけのことになるのだから、人間はもつと可能性があるはずだと考えられます。

一本のトマトの苗が一万個以上の実をつけたハイポニカ農法は植物に潜在する能力の偉大さを証明するものであることは確かです。しかし、自然に育っているトマトには、そんなことは起きませんでした。なぜならトマトは、地球のバランスの中で、自然の法則に合致した生き方をしているからです。自然の法則に合致したとき、生命は育まれ、守られるのです。④
私たち人間がどれほど限らない能力をもっているとしても、自然というものをよく観察して、その法則に合致した生き方をするべきだということがわかります。

しかし、現在の人間の行為を考えてみますと、歴史が進むにつれて、⑤ 自然の法則に反した能力の使用が目立っているように思います。それは、人間のものの考え方、特に人間の自然に反する考え方が原因なのではないか、と私は思うのです。石油資源をどんどん掘り起こして枯渇するほど使ったり、生態系を無視して森林伐採を行ったり、生産量を上げたいばかりに危険な農薬を多用したり、これらに限らず、どうみても人間の思いつきでしか思えないような行為ばかりが繰り返されています。人間にとつて確固たる自信をもつことは大切なのですが、それがともすれば高慢や傲慢になつてしまふ。そんなときぜひ思い出してもらいたいのは、本来人間に備わっている、つつしみの心なのです。

ある毒をもった蛾は、産卵を終えるとじつとして、わざと外敵に食べられる機会を増やすことがあるそうです。これは人間でいえば自殺のようなものですが、わざと食べられて「まずい」ということを覚えさせることで、若い蛾が襲われる機会を減らす努力をしているようなのです。蛾の親たちは自分がまだ生きられるのに、つつしみ深く自らの生命をあきらめているのです。別に人間が同じまねをする必要はありませんが、そこにあらわれた自然の法則に合致した生き方には、目を向ける必要があると思います。そうでなければ、人間の未来はけつして明るいものではなくなるでしょう。

科学技術には計り知れない可能性がありますが、これを使いこなすうえで、やはり人間の X が大切だと思います。基本的な生存にかかわる重大なこと、自然環境を破壊すること、生きものの姿形を変えるような自然の法則に反することは、それがたとえ技術的に可能であっても、控えることが大切だと思います。

(村上 和雄『生命の暗号』より)

問一 〓線部 a 「ともないません」、b 「お見せする」に用いられている敬語の種類を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 尊敬語 イ 謙讓語けんじょうご ウ 丁寧語ていねいご

問二 [A] く [C] に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度使うことはできません。

- ア ところが イ たとえば ウ つまり エ あるいは

問三 〓線部①「逆発想の立場」とは、トマトの例ではどのような立場のことですか。それを説明した文の [1]、[2] に当てはまる内容を、本文中の言葉を使って書きなさい。

トマトを栽培するとき、ふつう [1] と考えられているが、逆に [2] と発想するという立場。

問四 ── 線部② 「限界意識」とはどのような意識ですか。本文中の言葉を使って、三十五字以内で答えなさい。

問五 ── 線部③ 「見事に証明された」のは、どのようなことですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 巨大トマトを栽培することへの挑戦は、人間の素晴らしい能力によるものだとということ。

イ 生命というものは、人間が一般的に考えているよりも、素晴らしいものであること。

ウ 人間もトマトも、環境次第で遺伝子のもつ大きな可能性を發揮することができるとということ。

エ じゃまになるものを取り除くことで、トマトのもつ大きな可能性があらわれるということ。

オ 人間のもつ狭い考えによって、自然は多大なる影響を受けてしまうということ。

問六 ── 線部④ 「そのこと」とは、どのようなことですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア トマトより精巧な生きものである人間は、トマトのもつ千倍以上の可能性をもっていること。

イ 人間は、ハイポニカ農法のような自然の法則に合致した技術を開発し、活用していること。

ウ トマトは自然の法則に合わせて、自分のもつ素晴らしい能力をあえておさえていること。

エ トマトは自然の法則に合致したとき、潜在的な能力を發揮して一万个以上の実をつけること。

オ トマトも人間も、地球のバランスの中で、自分の可能性を最大に伸ばそうとしていること。

問七 ———線部⑤「自然の法則に反した能力の使用」とありますが、これを筆者はどのようなものにとらえていますか。本文中から二十字以内でぬき出して答えなさい。

問八 X に当てはまる言葉として最も適当なものを、本文中から六字でぬき出して答えなさい。

問九 本文の内容に合うものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 一万数千個の実をつけたトマトの苗は、土を使わず水耕栽培されたが、その種は品種改良を重ねた末のものであった。
- イ トマトの生命力を提示し、私たち人間にも無限の可能性があると人々に訴えかけているのは、野沢重雄さんである。
- ウ 自然環境を破壊するのは、多くの実をつけるトマトをつくるのと同じおろかな行為であると言える。
- エ 人間は傲慢しうまんになるのではなく、自然の法則を意識しながら、科学技術を用いることが大切である。
- オ 現在の人間は確固たる自信をもち繁栄はんを遂とげているが、それは人間の未来にとって正しい道である。

【三】 次の文章の主人公「有沢麗音」は小学校六年生の男子で、「北野のおばちゃん」の営む文房具店で起きた万引き事件で、

本当はやってもないのに犯人あつかいされてしまいます。「良平」は麗音のクラスメートで、麗音が万引きなどするはずがないと強く信じています。「中川先生」は麗音と良平の担任の先生で、麗音を信じたいという気持ちはあるものの、麗音を犯人だと思ってしまうました。「光（ひーちゃん）」は、北野のおばちゃんの孫で、麗音とは同級生にあたります。

本文は、この万引きに関する学校での騒動を聞きつけた北野のおばちゃんが、麗音と良平を自宅へと誘う場面から始まります。以下の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

北野文房具店のガラス戸は、ずっと閉まったままで二週間がすぎた。

「おばちゃんさ、目の手術したんだよ」

店の前で立ち止まっている麗音に、良平がいった。

「えっ、目の手術って？」

「うん、白内障っていうんだってさ。だいぶ悪くなっていたのに、お店を閉めるのがいやだからって、おばちゃん、がまんしていたみたいだよ」

「それで、おばちゃんは？」

「手術は簡単にすんだって、ひーちゃんのお母さんがいった。もう退院したんだけどさ、お店は、しばらく休みたいだよ」
良平は、手にもったバスケットボールを、トントンと地面にはずませながらいった。

「おばちゃんも年なんだからさ、ひーちゃんちでいっしょに暮らせばいいのにな」

ボールを麗音にパスしながら、良平はいった。光の家族と良平の家族は、親しかったから、おばちゃんのこと光のことも、良平はよく知っていた。

良平に、パスを返しながら、

「そしたら、北野文房具店はどうなるんだよ。なくなったら困るじゃん」

麗音は、不満そうにいった。もしも、北野文房具店がなくなって、おばちゃんに会えなくなったらと想像するだけで、麗音はさびしくなった。

放課後の校庭は、しーんと静まりかえっている。良平のドリブルするボールの音が、とても大きくひびいた。

「有沢くん」

えんりよがちな光の声がした。麗音がふりむくと、北野のおばちゃんと光が、スーパーのビニールぶくろをさげて立っていた。おばちゃんはやせて、ひとまわり小さくなったような気がした。

「ごめんなさいねえ。先生たちに疑われたんだって？　ほんとに嫌な思いをさせたわねえ。光から事情を聞いて、わたし、おどろいたわ。ほんとにごめんね」

麗音の胸に、^① 苦いものがこみあげてきた。おばちゃんは、わかるわ、というように優しくうなずいた。

「有沢くんも良ちゃんも、ちよつとよつていかない？　退院したばかりで、冷たい風がつかいのよ。熱いお茶でも入れるから」

おばちゃんは、やせた体にあわなない強い力で、麗音の肩をおした。

おばちゃんちのお茶の間は、あたたかなにおいがした。

^② 古びた畳の上のあちこちに、いろいろな物が置いてある。束になった新聞紙、ぬいかけの雑巾、たたんで重ねた洗濯もの……。

きちんと片付いた麗音の家のリビングよりも、心がとんと落ち着くのが、麗音はふしぎだった。すすめられるままに、こたつに足を入れると、ほわりとあたたかな風が起きた。

光が入れてくれた紅茶を、麗音と良平がおいしそうに飲んでいると、表のガラス戸をトントンとたたたく音がした。光が立っ

つて、店のガラス戸を開けた。

「おばあちゃん、中川先生がお話したいって」

店の方から、光が声をかけた。麗音と良平は、顔を見合わせた。

「ちようどいいわ。あがってもらって」

おばちゃんは、声をはりあげて答えた。

光に案内されて、居間に入ってきた中川先生は、麗音と良平の顔を見比べて、おどろいたような顔をした。

中川先生がこたつに入ると、良平はつんと横を向いた。

「良ちゃん、先生に悪いでしょ」

おばちゃんが、軽い調子で、良平をたしなめる。

「だって、おれたちをうらぎったんだから」

良平は、中川先生を上目づかいでにらんだ。中川先生が、^③肩をすくめた。

「そういわれても仕方ないっす。ぼくは、未熟で、どうしようもない教師です」

中川先生は、ほんとに自信がなさそうに、ぼそぼそといった。

「クラスの子どもたちの信用を、すっかりなくしました。情けないです。それで、なんとか有沢くんの無実を証明しようと思ひまして。北野さんにお聞きしたかったんです」

「真犯人はだれかってこと？」

良平が、いきおいこんでいった。

「おれも知りたい。おばちゃん、あの日店にきていて、それらしいヤツ、知ってんでしょ。教えてよ」

「お願いします、北野さん」

良平と中川先生の熱いまなざしが、おばちゃんにそそがれた。おばちゃんは、うつむく麗音に、目をあてていった。

「先生、わたしが、あの子じゃないかしらって、だれかの名前をいつたらどうします？ また、^④同じまぢがいおかを犯すことになりませんか」

中川先生は、ハツとしたような顔をした。

「わたしに確かにわかってるのはね、先生」

おばちゃんのまるまった背中が、中川先生に向かって、しゃんとのびた。

「有沢麗音という子が、^⑤万引きをしたり、うそをついたりするような子ではないということです。心のかがやきをもった子だという事です」

おばちゃんはそういういきると、麗音を見てほほえんだ。麗音は、おばちゃんのしわだらけの顔を見つめる。うれしさが、こみあげてきた。

「わたし、だてに年をとっていませんよ。不自由な目でも、人のもつ心のかがやきは、見分けがつかます。有沢くんおかの心は、いつだって、しっかりとかがやいていましたよ」

中川先生は、気の毒なくらいに、体をかがめて小さくなった。

「光から学校でのさわぎを聞いてね、先生。有沢くん、すごく傷ついたろうな。申し訳ないことをしたなって、気になって仕方なかったですよ。なんで、そんな心ないことを学校の先生方はするのかなって、いくら考えても、わたしにはわからなかったです」

おばちゃんは、湯のみに手をかけて、ふーっと息をはいた。

「世間ではね、ふつう、ひとさまの大切なお子さんを、犯人あつかいするなんて、できることじゃないですよ、先生」

麗音は、おばちゃんのあわい光をおびたひとみを、くいているように見つめた。

「店の前に手紙を置いた子は、たしかに万引きをしたかもしれないよ。でもね、せいっぱいあやまってくれているじゃありません」

んか。大人の心の幅はばの足りなさが、^⑥もうひとつ、大きな罪を犯させてしまったんですよ」

中川先生は、顔をまっかにかしている。

「しかし、ほかにどんな方法があったのでしょうか。万引きをした上に、本当のことをいわなかった子を、そのままというわけにはいかないでしょう」

小さな声で、中川先生はいった。おばちゃんはふっと笑う。

「中川先生は、悪いことをして叱しかられたこと、ないですか？」

おばちゃんに問われて、素直すなおな中川先生は、首をひねってしんげんに考える。

「とっても、おりこうさんだったみたいね」

おばちゃんは笑った。つられて、中川先生も頭をかきながら笑った。

「わたしは、七つの時だったわ。近所の駄菓子屋だがしさんで、ほしくてほしくてたまらなかったおはじきを、いくつか盗ぬすんだことがあったんですよ。走って逃にげて、人のいない山道まできて……」

おばちゃんは、遠くを見るように、目を細めた。

「右手にしっかりとぎったおはじきは、汗あせでぬれていたわ。はあはあいいながら、わたし、おひさまに、おはじきをひとつ透すかしてみたの。^⑦きらきら光って、きれいだったわ。その時だった」

^⑧良平と麗音は、ゴクリとつばをのみこんだ。

「こらあ、盗みはいかんぞうって、やつでの葉っぱで顔をかくした、駄菓子屋さんのおじいちゃんが、ぬーっとあらわれたの。わたし、おどろいて腰こしをぬかして、その場ばにへたりこんでしまったわ」

おばちゃんは、まるで、ついさっきの出来事のように、腰を手でさすった。

「おじいちゃんは、いったの。『天知る、地知る、人知る、我知る、つてことばがある。自分の行いは、だあれも知らんと思った

らいかんど。おてんとさまがちやあんと見とる。おまえの立っているこの地面も、だますことはでけん。だれかが見とる。そいでな、自分の心がいちばんよく見とるぞ。自分をけがすことは、やってはいかんのぞう』

おばちゃんは、うるんだ目に、そつと指をあてた。

「やつでの葉っぱで、顔をかくして、『わしは天狗じゃ』っていうんだけど、わたし、おじいちゃんだとわかっていたわ。それでも、おじいちゃんは、いっしょうけんめい天狗のまねをしてるのよ。わかりました、もうしません、て、わたしがいうと、『いい子じゃ、わかつたらええんじや』って、そのまま行ってしまったの」

中川先生は、おばちゃんの話に、すつかりひきこまれている。

「^⑨叱るといふことは、先生、そういうことなんじゃありませんかねえ。わたし、それから、『天知る、地知る、人知る、我知る』ってことばが、心のおくから聞こえてきて、自分をけがすことは、いっさい、できなかつたです」

「おばちゃん、なんでき、おじいちゃんは、天狗のまねをしたの？」

良平は、まじめな顔で聞いた。

「なんでだと思う？」

おばちゃんは、おだやかな笑みをうかべて、麗音と光と良平を見た。

「おじいちゃんは、知らないふりをしたんだ。おばちゃんが、おじいちゃんと会ったとき、心を痛めなくてもいいように……」

そういうと、麗音の目に、ふいに涙があふれた。おばちゃんは、優しく何度もうなずく。中川先生は、かみなりに打たれたように、身動きひとつしなかった。

「叱られる人の気持ちを、すごく大切に考えてくれたんだね。自分であやまちに気がついて、もうしないようになって」

ほおづえをついて、光がしみじみといった。

（青木 和雄『ハードル——真実と勇気の間で』より）

問一 ――線部①「苦いものがこみあげてきた」とありますが、その理由を説明したものととして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 万引きの犯人として疑われたときのつらい気持ちがよみがえってきたから。
- イ 北野文房具店がなくなってしまうことを想像して悲しくなったから。
- ウ 北野のおばちゃんの目の手術が成功したということを聞いてほっとしたから。
- エ 北野のおばちゃんの謝罪では、何一つなぐさめられず、くるしかったから。
- オ 良平との楽しい会話に途中で割りこまれたことを腹立たしく感じていたから。

問二 ――線部②「古びた畳の上のあちこちに、くたたんで重ねた洗濯もの……」とありますが、この光景から麗音はどのようなことを感じとっていますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 近くに住む家族が、北野のおばちゃんを献身的に助けていること。
- イ 近くに住む家族が、北野のおばちゃんをうとましく思っていること。
- ウ 北野のおばちゃんが、だれからの助けもこぼみ、かたくなであること。
- エ 北野のおばちゃんが、周囲からの助けも受けられず一人で生活していること。
- オ 北野のおばちゃんが、おだやかでぬくもりのある日々を送っていること。

問三 ―― 線部③ 「肩をすくめた」とありますが、これはどのような気持ちを表している言葉ですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア いらいらした気持ち。

イ きまりが悪い気持ち。

ウ こわがっている気持ち。

エ 泣いてしまいそうな気持ち。

オ 助けてあげたいという気持ち。

問四 ―― 線部④ 「同じまちがい」とありますが、その「まちがい」とはどのようなことですか。説明しなさい。

問五 ―― 線部⑤ 「万引きをしたり、うそをついたりする」とありますが、このようなことを「北野のおばちゃん」はどのようなことだと思っていますか。本文中から十字以内でぬき出しなさい。

問六

——線部⑥「もうひとつ、大きな罪を犯させてしまったんですよ」とは、どのようなことを表していますか。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 先生たちが犯人さがしをしたことで、真犯人に一度だけでなく、何度も万引きをくり返すという罪を犯させることになってしまったということ。

イ 先生たちが犯人さがしをしたことで、真犯人に万引きだけでなく、正直に名乗り出ないという罪までも犯させることになってしまったということ。

ウ 先生たちが犯人さがしをしたことで、真犯人だけでなく、他の子どもたちにも万引きという罪を犯させることになってしまったということ。

エ 北野のおばちゃんが犯人をさがさなかったことで、真犯人に万引きだけでなく、本当のことをいう必要がないとまで思わせてしまったということ。

オ 北野のおばちゃんが犯人をさがさなかったことで、真犯人が万引きをしただけでなく、先生や他の子どもたちにまで迷惑をかけてしまったということ。

問七 ———線部⑦「きらきら光って、きれいだったわ」という言葉には、「北野のおばちゃん」のどのような気持ちが表れていますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 盗みをしてもし方がないと自分自身を正当化している気持ち。
- イ 万引きをしてしまったという罪悪感に打ちのめされている気持ち。
- ウ ほしくてほしくて仕方がなかったものを手に入れて満足する気持ち。
- エ おはじきをもっとほしいと自分の欲望をおさえきれない気持ち。
- オ 本当のことを話し、おはじきを返しに行こうと決意している気持ち。

問八 ———線部⑧「良平と麗音は、ゴクリとつばをのみこんだ」とありますが、この時の二人の様子として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 北野のおばちゃんの話は、うそにちがいないと疑っている様子。
- イ 北野のおばちゃんがそんな悪いことをするはずがないと拒絶きよする様子。
- ウ 北野のおばちゃんがどうしてそんな話をするのかと不審しんに思う様子。
- エ 北野のおばちゃんの真にせまった話しぶりに引きこまれている様子。
- オ 北野のおばちゃんのその時の感情を推測しようと必死になる様子。

問九 ——— 線部⑨ 「叱るといふことは、先生、そういうことなんじゃありませんかねえ」について、次の問いに答えなさい。

I 麗音と光と良平は、「叱る」といふことにはどのようなことが必要だと理解しましたか。本文中の言葉を使って、説明しなさい。

II Iのことが必要なのは、何のためですか。本文中の言葉を使って、説明しなさい。

問十 「中川先生」と「駄菓子屋のおじいちゃん」の叱り方が異なっているのは、何のちがいによるものですか。それを示す最も適当な言葉を、本文中から三字でぬき出しなさい。

--

【一】		
問一	⑤	①
⑧	⑥	②
⑨	める	③
⑩	⑦	④
		る

問二	①	
②	②	
③	③	
④	④	
	⑤	
	⑥	

【二】		
問一	a	
	b	
	問二	
	A	
	B	
	C	

問三	1	
	2	

問四		
問五	問六	
問七	問九	
問八		

【三】		
問一	問二	
	問三	
問四		

問五		
問六	問七	
	問八	

問九	II	I
----	----	---

問十		
----	--	--

平成二十七年 度

和歌山信愛中学校

入学試験 中期日程

国 語 (六〇分 一〇〇点)

受験上の注意

- 一 問題用紙は1〜20ページまでです。
開始のチャイムが鳴ったら確認して始めなさい。
- 二 受験番号は、問題用紙と解答用紙の両方に書きなさい。
- 三 終了のチャイムが鳴ったら、問題用紙の上に解答用紙を
開いたまま裏返しておきなさい。

受験番号

〈解答は、句読点や記号も一字分と数えて記入すること。〉

【一】次の問いに答えなさい。

問一 次の――線部①～③の漢字の読みをひらがなで答えなさい。また、――線部④～⑧のひらがなを漢字に直しなさい。

- ① 家屋が倒壊する。
- ② 鬼の形相でにらむ。
- ③ 自分の行動を省みる。
- ④ アメリカから小麦をゆにゆうする。
- ⑤ 国語のせいせきが上がった。
- ⑥ ちよめいな小説家。
- ⑦ 制度をさっしんする。
- ⑧ 紅茶にレモンをたらす。

問二 次の①～⑤のことわざの□に入る漢数字を答えなさい。また、A・Bの意味を持つことわざは①～⑤のどれに当たりますか。それぞれ番号で答えなさい。

① 一を聞いて□を知る

② 三つ子の魂たましい□まで

③ 親の□光り

④ □階から目薬

⑤ 仏の顔も□度

A 幼いころの性格は年を取っても変わらないこと。

B 思うようにならなくてもどかしいこと。

問三 次のの中から漢字二つを使って、熟語を六つ作りなさい。同じ漢字を何度使ってもかまいません。

減
多
加
増
少
才

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

生命という現象は謎なぞだらけです。厳密な定義がない上に、いつ、どこで、どうやって生まれたのかもわからない。しかし現に「生命体」としか呼べないものが地球上に生まれ、長い時間をかけて多様な形に進化を遂とげてきました。

もちろん、自らを「ホモ・サピエンス（＝賢いヒト）」と名づけた私たちも、^①その一員です。この高度な知能を持つ生命体が登場しなければ、生物という謎めいた存在に気づく者もいなかったでしょう。宇宙のどこから知的生命体が地球にやって来れば話は別ですが、目に見えないほど小さな単細胞生物ぼうが、私たちのような知能を持つ生物にまで進化しなければ、「生命とは何か」という問題そのものも存在しませんでした。そう考えると、まるで^②生命が自分のことを知るために進化したようにも思えてきます。

しかし、生物の進化とはそういうものではありません。

人類というゴールに向けて徐々に進化してきたと思っている人も多いのですが、これは必然ではなく、単なる A の積み重ねです。 ^aあらかじめ何か目的があり、それに向けて必然的に形や機能を変えてきたわけではありません。したがって、五〇億年かけようが、一〇〇億年かけようが、「生命とは何かを考える生命体」が生まれなかった可能性もありました。 ^b現在の多様な生命体は、「目的」ではなく「結果」にすぎないのです。

いきなりそういわれても、抽象的すぎてわからないかもしれませんので、もう少し詳しく生命の特徴である進化について説明してみましよう。

かつては、 ^c生物の進化には目的があり、それに向かって必然的に生じたとする考え方がありました。その代表が、一八世紀から一九世紀にかけて活躍したフランスの博物学者ジャン・バティスト・ラマルクの提唱した進化論です。

ラマルクは、 ^d単純な生物が時間を経たることで、より複雑で完全な生物に進化すると考えました。 ^eあらかじめ「完全なもの」

を進化のゴールとして想定し、その方向が定まっていられるのは、目的論的な発想です。

I、生物はその目的に向かってどのように姿形を変えていくのか。

それについてのラマルクの考え方は、「用不用説」と呼ばれています。簡単にいえば、その動物が生活の中でよく使う器官は次第に発達し、あまり使わない器官は次第に衰えるということ。これは、私たちの日常にもよくあることです。病気で寝たきりの生活を長く続けていれば足腰が衰えますし、仕事やスポーツでよく使う筋肉は強くなります。漫画家の指先にペンダコができるのも、ある意味で「発達」と呼べるかもしれません。毎日のようにプールで練習している水泳選手の中には、指と指のあいだに「水かき」のようなものができる人がいるという話もあります。

II、「用不用」によって生物の体が変わるのは、決して特別なことではありません。ラマルクの進化論のポイントは、その先にあります。

彼は、用不用によって生じた個体の変化が、子孫にも受け継がれると考えました。III、キリンの首。それが他のほ乳類と比べて長いのは、ラマルクにいわせると、キリンの祖先が高い木の枝にある葉を食べるために首を伸ばしていたからだ、ということになります。そのため、その祖先の首は少しだけ伸びた。この形質が子供に遺伝し、その子供も高い木の枝の葉を食べるために首を伸ばして、さらに首が伸びる……これを何百世代にもわたってくり返しているうちに、現在のような「完全なキリン」ができあがったというわけです。これは、多くの人にとって納得しやすい話でしょう。小さな子供に「キリンの首はなぜ長いのか」と質問されたときに、「高いところにある葉っぱを食べるためだよ」と答える人は少なくありません。まず目的があつて、それを実現するために動物が進化するというイメージを抱いている人が多いのです。

IV、よく考えてみてください。そうだとすると、漫画家の子供は生まれたときから指に小さなペンダコがあることになるし、何世代にもわたって水泳選手を続けられれば、最初から水かきのある子供が生まれるかもしれません。

実際、③ラマルクの進化論は主にその点で批判を受けました。ネズミの尻尾を二世代にわたって切り続け、その長さが短くなら

ないことを示した研究者もいました。ラマルクは、「怪我は獲得形質に含まれない」と説明していますが、これはあまり説得力がありません。後天的に衰えたものが遺伝するならば、怪我で失ったものも遺伝するはずですが。

ともあれ現在では、遺伝子の研究が進んだことによって、ラマルクの用不用説は否定されています。ある個体が後天的に獲得した形質は子に遺伝しないことが明らかになったからです。したがって、「よく使う器官が発達し、使わない器官が衰える」というラマルクの進化論は、根本的に成り立たないのです。

現在でも、ラマルクの用不用説に基づく進化論を唱える人がいないわけではありません。なにしろ過去に起きた生物進化はどうやっても実証することができないので、そこではさまざまな仮説が乱れ飛ぶのです。

しかし④ 現在の正統的な生物学界では、ラマルク説は完全に否定されていると思っていましょう。現在の生物学者が進化といえば、それはチャールズ・ダーウインの進化論に基づくものです。ダーウインが一八五九年に発表した『種の起源』で示した生物進化の基本的なプロセスは、現在でも否定されていません。ダーウイン以降、遺伝学や分子生物学などが発達したので、その内容はより深まっていますが、根本的な考え方は同じです。ダーウインの考えに基づく現代の進化論は、「ネオ・ダーウイニズム」と呼ばれています。

それによれば、キリンの首が長くなったのは、ある個体が生まれた後に長い首を獲得したからではありません。DNAの突然変異によって、最初から少し首の長い個体が生まれたのが始まりです。いわば遺伝子のミスコピーが起きたわけですが、これは、いつ、どこで起きるかわかりません。まったくの偶然で、親とは少し違う形質を持つ個体が生まれてくるのです。

突然変異は一種の「奇形」ですから、大半はあまりうまく生きられません。仲間より首が長いキリンの祖先も、周囲に低い木や草原しかなければ、かえって不利です。エサを食べるのに苦勞するので、生存競争に負ける可能性の方が高いでしょう。その場合、その個体は子孫を残すことができず、したがってキリンの祖先にもなれません。

しかし、生活環境が変化して高い木が多くなれば、首が長いほうが生き残りやすくなります。DNAの突然変異は一定の確率で

ランダムに起こりますから、たまたまそういう環境で「首の長いほ乳類」が生まれることもある。その場合は、首の短い個体より長い個体のほうが子孫を多く残すでしょう。

もし、その「家系」は首の骨が伸び続けるように突然変異したとすると、代を重ねるごとに少しずつ首が伸びていきます。その結果、現在のようキリンになった。……それが⑤ダーウィン進化の基本的なシナリオです。

最初に突然変異を起こした個体は、同種の異性との交配がまだできるくらいにしか変化していなければ、交配によって子を作ることができません。やがて同じ特徴を持つ子孫の個体同士でつがいを作るようになっていくかもしれません。そうして代を重ねていくと、次第に元の種の集団との違いが大きくなり、やがて交配ができなくなっていくます。そうなった時点で、「新種」として独立したと考えるわけです。

環境に適応した新種が、古い種との生存競争に勝って生き残ったと勘違いしている人もいますが、進化はあくまでも個体間競争や小さな集団の隔離などの結果です。突然変異によって新しい種がいきなり出現するわけではありません。進化は、突然変異を起こしたひとつの個体から始まり、それが自然環境の中で生き残りやすい性質を持っていれば、やがて独立するであろう新種の祖先になるのです。

ここまでの話で、いかに生物の進化が偶然に左右されているかわかってもらえたと思います。突然変異はランダムに起こる偶然ですから、目的も方向性もありません。そこに何らかの方向性を与えるのは、環境です。与えられた環境の中で生存競争が行われ、より良く生き残ったものだけが繁栄する。何が生き延びるか、その時々で違ってくるのです。

ただし私は、生き残った突然変異が「たまたま運が良かっただけ」とは思いません。たとえばキリンの祖先となった個体が、周囲の仲間と同じように地面の草を食べようとしていたら、草をめぐる競争に負けて、生き残れなかったでしょう。しかし、高いところにも食べ物がすることに気づき、自分の身体的特徴を生かして独り占めにすれば、

X

ことができます。そうやって、持って生まれた体をうまく使う生き方を開拓した個体が、新種の祖先になれる。あらゆる種の祖先は、クヨクヨせずポジ

タイプ・シンキングで現状を乗り切った個体だと考えることもできるのです。

(長沼^{ながぬま} 毅^{たけし} 『生命とは何だろうか?』より)

問一 ー線部①「その一員」とありますが、それは何の一員ということですか。本文中の語をぬき出しなさい。

問二 ー線部②「生命が自分のことを知るために進化した」とありますが、この考え方と異なる考え方を本文中の~~~~線部 a~eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

問三 本文中の [A] に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 整然
- イ 漠然^{ぼく}
- ウ 突然
- エ 当然
- オ 偶然^{ぐう}

問四 本文中の [I] ~ [IV] に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア しかし
- イ では
- ウ そして
- エ たとえば
- オ だから

問五 —— 線部③ 「ラマルクの進化論は主にその点で批判を受けました」とありますが、ラマルクの進化論は、どのような点で批判を受けたのですか。「〜と考えた点」につながる形で、本文から三十字以内でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問六 —— 線部④ 「現在の正統的な生物学界では、ラマルク説は完全に否定されている」とありますが、ラマルクの進化論は、現在ではなぜ完全に否定されているのですか。本文の言葉を使って、五十五字以内で書きなさい。

問七 —— 線部⑤ 「ダーウィン進化の基本的なシナリオ」とありますが、それを説明した次の文の空欄に入る言葉を、指定された字数で本文中からぬき出しなさい。

進化は、ひとつの個体の（ i 四字 ）から始まり、その変化が（ ii 四字 ）に適応しやすい性質を持つものであれば、その性質を持つ子孫を多く残すことになる。やがて（ iii 九字 ）の間で交配が起こるようになり、そうやって何代も経るうちに（ iv 三字 ）との交配ができなくなった時点で、その種は「新種」と認められる。

問十 筆者の論の展開についての説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 私たちの日常生活に見られる姿形の変化が、どのように進化に結びついていくのかを、ラマルクとダーウインの二つの説を用いて非常にわかりやすく説明している。

イ 生物の進化の目的について、ラマルクとダーウインの二つの説を紹介し、その説のどちらが正しいかを具体的な例を挙げながら、様々な角度から相互に検証している。

ウ 進化の考え方にはラマルク説とダーウイン説の二種類があることを、キリンの首を例に挙げて紹介し、そのどちらが正しいかの判断は今後の研究にゆだねられるとしている。

エ 生物の進化について、ラマルクとダーウインの二つの説を用いて説明した上で、たまたま生き残った生物は、持って生まれた体をうまく使う生き方を開拓すべきだと結んでいる。

オ 進化に関して、現在も多くの人が勘違いしているラマルクの説を紹介し、その間違っている点を指摘し否定した上で、現在正しいとされているダーウインの説を示している。

【三】次の文章は椰月美智子の小説『しずかな日々』の一節です。母親と二人で暮らしている、引つ込み思案な少年枝田（ぼく）えだいち）は祖父とともに暮らすために転校します。転校先の学校で押野という少年に出会い、彼のいろいろなはからいで初めて集団生活の楽しさを知っていきます。以下の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

学校は楽しかった。自分がきちんと学校に通って、授業に参加しているんだというあたりまえのことを誇らしく思った。もちろんそれは押野のおかげだった。なにしろ、去年までは一日の間にクラスメイトのだれとも話さなかったときだって少なからずあったのだから。

①飼育委員になって「しまった」と思ったのは、教室で飼う生き物を決めなくてはならないからで、それが今回の学級会の議題だった。

飼育委員は四人いて、ぼく以外は女子一人に男子が二人。女子は亀山さんというちょっと変わった女の子で、自分の名前にちなんでどうしても亀を飼いたいらしい。あとの二人は、ぼくとはまたちがった感じのおとなしい男子でも仲がいい。二人でいつも一緒にいる。見た目も、髪型やメガネの感じがよく似ている。

昨日、飼育委員四人を集めて、「事前に飼育委員でよく相談しておくように」と、椎野先生が言ったというのに、だれ一人として相談をしようという気配がない。ぼく以外の二人の男子は何やらひそひそ話しているみたいだけど。

彼らに任せとけばいいか、とぼくはちよつとだけ思った。でも、ほとんどの部分ではちゃんときめておかなくちゃ、とあせっていた。だって椎野先生と押野に迷惑がかかってしまうから。でもなかなか言い出せなかった。だれかが声をかけてくれればいいのになと思いつながら、ぼくは待っていた。今までは、ぼくが行動に移す前には、すべてのことがきちんと決まっただけでぼくはそれに従うだけでよかった。けれど、今回のメンバーは期待できそうになかった。

なんとなく、彼らの視線を感じる。でも、こっちから声をかけることができない。亀山さんにも何度も視線を送っているけれど、

絶対気づいているはずなのに無視している。どうしよう。学級会は五時間目だから、それまでになんとかしなくちゃいけない。頭の中でもやもやと考えているだけで時間はどんどん過ぎ、あつというまに昼休みになってしまった。

「ねえ、ちよつと！」

突然、亀山さんに声をかけられた。

「亀に決めたから！」

「……え、亀？ 亀だけ？」

「そう。亀にだっていろんな種類がいるんだから、いいでしょ！」

そんな……、と思ったけど、反論のしようがなかった。

「あ、あとの二人は？」

「よくわかんない。えだいちから聞いておいてよ。みんなちつとも決めないんだから。とりあえず亀で決まりだから！」

時間は刻一刻と迫^{せま}っている。振り返^ふって二人を見ると、ぼくのことをじいっと見ている。ぼくは考^aえあぐね^ねたすえに仕方なく彼らのところへ行^いった。

「亀山さんが亀って言っているけど、それで決まりでいいのかな」

二人は顔を見合わせるだけで、何も答えない。

何度目かの同じ質問に、

「家で熱帯魚とかいろいろ飼っているから、べつにそんなのなんでもいい」と片方がいった。そして二人で目配せし合^あって、ふんと鼻^bで笑^わった。

「べつになんでもいい」

もう片方も、同じような調子でそう言った。正直ぼくはむかっときた。

③ これじゃあ、亀山さんのほうがよっぽどましだ。

「わかったよ」

ぼくは二人に背を向けた。眉間や耳のあたりが、かあつと熱かった。いかげんすぎるんじゃないかと思った。二人でにやにや笑ったりして嫌な感じだ。こめかみがじんじんした。これが怒るってことだ。気分がいいのでは決まてないことがはじめてよくわかった。

五時間目はすぐにやってきて、学級会がはじまった。そして、椎野先生が、
「まず飼育委員の人たちが決めたものを発表して下さい」と言った。

ちらつとあの二人を見ると、下を向いている。ぼくはまたむかつときたけど、深呼吸をしたらだいぶ収まった。亀山さんに目をやるとすましたままだ。だれも発表する気がないらしい。

「ほら、飼育委員！」

椎野先生にパンツと手を叩かれて、④ ぼくは思わず立ち上がった。立った自分にびっくりした。クラスメイトのみんなもびっくりしていたにちがいない。五年生になって、押野にからかわれたりして、多少はみんなから注目を浴びることもあったけど、それは本当に時々って感じで、ふだんのぼくは相変わらずのさえない男の子だったから。

「はい、じゃあ枝田君発表して下さい」

椎野先生はいつもの笑顔にさらにうれしさが加わったような顔をしていた。

その姿は、ぼくをやさしく見守ってくれている親戚のおばさんみたいで、ちょっとだけ心強く思った。

「ぼくたち飼育委員が決めた、クラスで飼う生き物の候補を発表します」

ぼくはみんなの方を向いて、ひと呼吸したあと大きな声で言った。

「一つ目は亀です。亀といってもいろいろな種類の亀がいますが、飼いやすいのはミドリガメやゼニガメです。小さくてとてもかわいいです」

言葉はすらすらと出てくる。

「それと、ぼくの意見ですが、グッピーやネオンテトラなどの熱帯魚を飼いたいと思います。赤ちゃんを産ませてそだてたいからです。あと、淡水魚だったら、あやめ川でつれるフナとかハヤもいいと思います」

教室中がしんとしている。みんなの前で堂々と話している。自分でも驚いた。ぼくは引つ込み思案で、人前で話すなんてとてもじゃないけどできなかった。そんなぼくが、こんなふうに分の意見を、頭の中で思っていたとおりに、みんなの前でしゃべることができるなんて。ぼくは、おもむろに息を吐いてから静かに席に座った。母さんが買ってくれた水辺の生き物図鑑と熱帯魚図鑑はぼくの愛読書だ。

⑤「お、おいおい、なんだよ。いつもとちがうじゃねーか、今日のえだいちは」

押野がおどけて沈黙を破ったと同時に、空気がはじけてみんながわらった。⑥ 椎野先生は、まっすぐにぼくを見ていた。亀山さんの方を見たら、ピースで返してくれた。

学級会では、その後、さまざまな意見が出たけど五年二組で飼育するのは結局グッピーとなった。ぼくはうれしかったけど、亀山さんには申し訳ないような気がした。

「ごめんね、亀飼えなくて」

あとで亀山さんに謝ったら、亀山さんは「気にしないで」と言ってくれた。

「私、グッピーも好きだから。いっぱい増やしたいよね」と。ぼくは大きくうなずいた。

ぼくたち飼育委員は、椎野先生と一緒に近所の熱帯魚屋さんに行つて、グッピーをつがいで六匹買った。本物のグッピーは図鑑で見るよりもっともときれいで、思ったよりも小さかった。

水槽をきれいに洗つて、酸素ポンプを取りつけた。学級会の時はちよつとむかついたけど、家で熱帯魚を飼っているという二人だけあつて、手際よく準備をしてくれた。ぼくはお礼を言った。二人は「ありがとう」といつてくれた。人にはさまざまな顔があ

る。さつき怒っていた^⑦自分が恥^はずかしくなった。

四人で、これからの飼育日記のつけ方や、エサのやり方を相談した。三丁目の空き地で野球をする連中とはまた違った感覚で、友達にはいろんな種類があるんだなあ、と漠然^{ぼく}と思った。

五月末の遠足では、くじ引きで決めた班で行動した。押野とも飼育委員の連中とも同じ班ではなかったけど、リュックを背負つての山歩きは楽しかった。椎野先生に見つかり怒られるまで、ぼくたちの班ではジャンケンをして負けた人が、勝った人の荷物を持つというゲームをして歩いた。このときのぼくには、ジャンケンの神様がついていたのか、一回も負けることなくかなりの距離^{きより}を楽できた。

「転倒^{たう}したらどうするの！ 山道は危険なんだから絶対にやめなさい。両手をきちんと開けておかないとだめよ」

椎野先生は山登りが趣味^{しゅ}だということで、子どもが登れるような山でも、完全装備だった。いつものふくらはぎまでのずんぐりしたスカートをはいているときよりも、もつとずっと若く見えた。

「先生、その帽子^{ぼう}似合ってるよ」と黄色い羽のついている帽子を見て、班のだれかが言った。

五年生になって、押野をきっかけに、ぼくは自分でも変わったと思う。今まで知らなかったことが、いきなりたくさんあふれ出てきて、ぼくはそれらを急速に吸収した。野球、友達、飼育委員、怒ること、笑うこと。

母さんとぼくの二人だけの世界から、景色はみるみる広がっていった。

問一 〜〜線部 a c の本文中の意味として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

a 「考えあぐねた」

- ア 考えてもどうにもならず困った
- イ これ以上考えてもむだだと割り切った
- ウ どうとう隠したままではいられなくなった
- エ 心配でいてもたってもいられなくなった
- オ あてがはずれてなすすべがなくなった

b 「鼻で笑う」

- ア おかしがって声を立てて笑う
- イ 楽しそうにくすくす笑う
- ウ 馬鹿ばかみたいにへらへら笑う
- エ 意味ありげににやにや笑う
- オ 見下して冷めた様子で笑う

c 「おもむろに」

- ア すぐさま
- イ ゆっくりと
- ウ はつきりと
- エ あいまいに
- オ あっさり

問二 ――線部①「飼育委員になって『しまった』と思った」とありますが、これはなぜですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 何につけても不器用なぼくが飼育委員をやることで、友達の押野や椎野先生に迷惑をかけてしまいそうだったから。
イ 今までは人が決めたことに従うだけでよかったのだが、今回は初めて自分で何を飼うかを決めなければならなかったから。
ウ 他の飼育委員のメンバーとうまく相談できそうな気がせず、自分の好きな動物を飼うことができそうにもなかったから。
エ 学級会までに何を飼うかが決まる気配がまるでなく、今回も自分一人で決めなければならぬような気がしたから。
オ 飼育委員の他のメンバーたちの行動が自分ではどうしても理解できず、彼らのことが好きになれそうもなかったから。

問三 ――線部②「椎野先生」とありますが、この話の中で「ぼく」は「椎野先生」をどのような存在だと思っていますか。本文中から二十五字以内でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問四 ――線部③「これじゃあ、亀山さんの方がよっぽどましだ」とありますが、「亀山さんの方がよっぽどまし」なのはなぜですか。それを説明した次の文の（ ）に入る語句を指定された字数で答えなさい。

男子二人は（ ）二十字以内（ ）のに対して、亀山さんは（ ）二十字以内（ ）から。

問五 ——— 線部④ 「ぼくは思わず立ち上がった」とありますが、この時の「ぼく」の気持ちを説明したものと最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 先生に促うながされるまま勢いで立ってしまい、今までの自分であれば考えられない自分の行いに戸惑まどっている。
イ 尊敬している先生に嫌きらわれたくない一心で立ってしまったものの、何も言えない自分に後悔かひしている。
ウ クラスで飼おうとしているものについて自分の意見を言う機会がまわってきて、気合いが入っている。
エ 急にぼくに対して厳しい様子を見せる先生に直面し、どうしていいかわからずただうろたえている。
オ 飼育委員として立派な発表をすることで、大好きな先生にいいところを見せてやりたいと狙ねらっている。

問六 ——— 線部⑤ 「お、おいおい、なんだよ。いつもとちがうじゃねーか、今日のえだいちは」とありますが、押野は「えだいち」のどのような様子に驚おどろいているのですか。「いつも」の様子をふまえて五十字以内で説明しなさい。

問七 ——— 線部⑥ 「椎野先生はまっすぐにぼくを見ていた」とありますが、このとき「椎野先生」はどのような気持ちだったと考えられますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「ぼく」の行動が予想通りのものであったので、それをうまく導き出した自らの指導力に満足している。
イ 思いがけない「ぼく」の一面を目にし、驚きながらも、彼の進歩を実感し喜びをかみしめている。

ウ 自分で決定し行動している「ぼく」の様子に驚きつつ、勝手な「ぼく」へのいらだちを感じている。
エ 押野の「ぼく」への言葉をおもしろいと思いつつも、生徒の前では笑いをこらえようと我慢している。
オ 予想もしていない展開に驚きながらも、生徒たちに馬鹿にされている「ぼく」のことを気遣っている。

問八 ———線部⑦「自分が恥ずかしくなった」とありますが、これはなぜですか。その説明として最も適当なものを次の中から
選び、記号で答えなさい。

ア グッピーの飼育に関して思わぬ協力を得ることができ、楽ができると感じた自分をずるいやつだと感じたから。
イ 学級会の時の二人の対応から、彼らのことを激しく憎んでいた自分の方こそいけないのだと悟ったから。
ウ ポンプをうまく取り付ける彼らの様子を見て、自分の方こそが無能なのだということを思い知ったから。
エ 彼らの限られた一面だけを見て、腹を立てていた自分の方こそ心が狭いのだということに気がついたから。
オ 全て一人でやろうとしていた仕事を手伝ってもらったことで、自分が空回りしていたことがわかったから。

問九 本文の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 登場人物ひとりひとりの心情がていねいにえがかれていることで、主人公とまわりの友人たちとの関係が変化していく様子がありありとわかるようになっていく。

イ 誰もが人生の途中で出会うようなエピソードを、擬音語を多用した易しい文章でえがく工夫をすることで、読者が共感しやすくなっている。

ウ 転校先の学校で初めてのことに挑戦していく中で、主人公が先生や友人と関わりながら新しい自分に気づき成長する様子をいきいきとえがいている。

エ 教室の開放的な雰囲気の中でさまざまな友人たちとの関わりながら成長し、少年時代への別れを告げる主人公の姿をもの悲しい調子でえがいている。

オ クラスの友人とぶつかりあい、みんなの前で発表するという試練を乗り越えていくことで、成長していく主人公の様子を椎野先生の視点を通してえがいている。

【一】(26点)

問一	① かおく	② ぎょうそう	③ かえり	④ 輸入
	⑤ 成績	⑥ 著名	⑦ 刷新	⑧ 垂らす

(読み各1点)
(書き各2点)

問二

A	① 十	② 七	③ 二	④ 三
B	② 百	③ 七	④ 二	⑤ 三

(各1点)

問三

減少	多少	多才	加減	増減	増加
----	----	----	----	----	----

など (各1点)

【二】(40点)

問一 生命体 (2点) 問二 b (3点) 問三 オ (2点)

問四

I	イ	II	オ	III	エ	IV	ア
---	---	----	---	-----	---	----	---

(各2点)

問五

用不用によ	く	け	継	が	れる
-------	---	---	---	---	----

と考えた点。(3点)

問六

こ	体	遺	と	が	後	子	の	研	究	が	進	ん	だ	こ	と	に	よ	っ	て	、	あ	る	個
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(5点)

問七

iii	同	じ	特	徴	を	持	つ	子	孫	iv	元	の	種
-----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---

(各2点)

問八

ウ (2点) 問九 エ (3点) 問十 オ (4点)

【三】(34点)

問一 a ア (各2点) 問二 c イ (3点)

問三

ぼくをやさしくのおばさん (3点)

問四

男子二人は	飼	育	す	る	動	物	に	関	し	て	何	も	言	っ	て	く	れ
男子二人は	飼	育	す	る	動	物	に	関	し	て	何	も	言	っ	て	く	れ

(各2点)

問五

ア (3点)

問六

い	つ	も	は	お	と	な	し	く	、	人	前	で	話	す	こ	と	が	で	き
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(5点)

問七

イ (3点) 問八 エ (3点) 問九 ウ (4点)

問 次の文章を読んで、「幸せ」についてあなたの感じたことや考えたことを六百字以内で述べなさい。

「心が喜ぶ生き方、幸せな生き方について、そのポイントをたった一つにしぼるなら、なんででしょう？」

もし、そんな問題がでたら、あなたならどう答えるでしょうか？

私ならこう答えます。「いまの幸せに気づくこと」。どういふことなのか説明しますね。

一九九一年の秋、台風が次々に上陸して、青森県のリンゴが九割も落ちてしまったことがありました。作ったリンゴの九割が売れない。リンゴ農家の人は肩を落として嘆き悲しみました。しかし、嘆き悲しまなかった人がいたのだそうです。大丈夫、大丈夫と。どうして大丈夫なのでしょう？

その方は、落ちなかったリンゴを「落ちないリンゴ」の名前で受験生に売り出したのだそうです。一個千円で。すると高いけれど、飛ぶように売れたそうです。受験生も縁起がいいと大変喜んで食べました。これで、農家の人も助かり、買う人の喜びも生まれたのです。

どんな出来事にもプラスに見える部分とマイナスに見える部分があります。マイナスとプラス。どちらを見たほうが人生は楽しくなりますか？ その方は下に落ちた九割のリンゴに意識を向けず、上に残っていた落ちなかった一割のリンゴを見ていたのです。

マイナスに見える局面の中にも必ずプラスはあります。問題はあなたがどちらを見るかにかかっているのです。

カナダに行ったとき、雨の中、傘をささずに歩く人が半分もいることに驚きました。アメリカでもそういう傾向があります。外国の方はなぜ傘をささないのかというテレビの街頭インタビューを見たことがあります。その中に、「雨に当たると気持ちがいいから」と答える方がいました。

また、僕の友人の僧侶は、お寺で修行しているとき、雨の日がとても楽しみだったと言っていました。彼は音楽が大好きだったけれど、さすがにお寺で聴くわけにはいかない。でも、雨の音に意識を向けていると、雨の音が音楽を奏でていることに気づき、以来、雨が大好きになったそうです。

雨を憂鬱だととらえることもできれば、雨を楽しむこともできるのです。

幸せを感じるかどうかは、起きる出来事が決めるわけではないのです。環境が決めるわけでもない。では、何が決めるのか？

あなたの心が決めるのです。幸せはあなたのとらえ方が決めます。

(ひすいこたろう『幸せになる作法』より)

